



ルーシー、シモンそして愉快的な動物の仲間たちは、君がおすすめした『奇跡』の道を通ります。雪が消えてしまっている、とても奇跡的な道です。さんさんと輝く太陽の木漏れ日が溢れています。でも、だんだんと暑くなってきました。とっても暑いんです。すると目の前に滝が現れました。

「じゃあ、僕はひと泳ぎしてくる! 暑すぎるよ。」不機嫌なクマが歩み寄ります。でも、少しずつ滝に近づくにつれて、灼熱の空気の中に消えてしまいました。

「暑気楼だったんだ!」ハリネズミは大変驚いています。

冷たい息が最後の痕跡を吹き飛ばし幻を完全に消し去ってしまいました。代わりに、雪、寒さ、そして、鮮やかな枝と色とりどりのフルーツが実るきれいな木が現れました。

「真冬にこんなにきれいなフルーツ、信じられない!」

「普通、この季節に木を彩る色って言ったら、おじいさんとおばあさんの家のクリスマスツリーの飾りくらいよね。」と、ルーシーが言います。

「色とりどりのフルーツ、おいしそう・・・おなかが空いてきた!」

食いしん坊なリスが飛びつきます。

「待って、フルーツじゃないよ! 見てよ!」アナグマが枝に揺れるきれいな布を見せながら言いました。

「すごい!」ブタが声を上げます。

「すごい!」ガチョウもこたえます。

「ショーツ!」アナグマが叫びます。

「わー! やったあ!」いつもご機嫌なウサギも加わります。

「ショーツの木があったよ、可愛くて素敵だね!」と、シモンとルーシーも歓声を上げています。



「ショーツはとても可愛いけど、取りに行かないといけないじゃないか!」と、不機嫌なクマ。「そうだね。誰か木に登れるかな?」シモンがたずねます。「やってみよう!」いつも乗り気なピンクのブタが言い出しました。けれど残念ながら、そのやる気とみんなの応援にも関わらず、ブタは木に登ることができませんでした。

「僕に登るよ!」次はアナグマです。

「頑張れ!・・・頑張れ!・・・頑張れ!・・・」動物たちは声を合せてアナグマを応援しましたが、残念ながら、ショーツまでたどり着くことはできませんでした。

「ねえ、リスさんはどこ?」白ウサギがたずねます。

「ホオホオラヨ(ここだよ)!」茂みの中で見つけたばかりのヘーゼルナッツを口いっぱい詰めて込んでいる、小さな木登り動物がこたえます。

「私たちのためにショーツを取りに行ってくれないかな?」

「ごめん、でも、おなかがいっぱい動けないんだ。」

「そう言うと思ったよ! 本当はできないんだろう!」と、クマが文句を言います。

「え、何だって? 本当に僕に登れないと思っているの?」リスが言い返します。

「ちゃんと見ておけよ!」

さあ、リスがショーツの木に登り始めました。

仲間たちはみんなではしご代わりになり、リスを手伝います。ピンクのブタはアナグマを背負い、アナグマはガチョウを支え、ガチョウはハリネズミの土台となり、ハリネズミはリスのお尻を持ち上げ、リスはハリネズミにおしりを押されながら頑丈な枝につかまり、そしてついに、その枝から木によじ登り、頂上までたどり着きました。

「ショーツが欲しいのは誰?」みんなに聞きます。青に白、金色、ピンクもあるよ!

「僕! 私! 僕も!」寒さで青い顔をした動物たちが一斉に応えます。

「ああ! これで少し寒くなくなる!」アナグマは喜んでいます。

「そうだといいけど!」クマがぶつぶつ言っています。

「君は不満ばかりだね!」と、いつもご機嫌なウサギがとがめます。

「見て、こうすると格好良くない?」ブタが大笑いしています。

Instagramコンテスト! 動物たちはみんなとても風変わりな、ショーツをそれぞれいろんな方法で着ています。

アニマルマスク(お面)のDIYをダウンロードして、動物のお面をつくってみよう!

お面で変身したを写真を撮ってInstagramで「# マスクマトロ」@petitbateau_jpと一緒に投稿してね!

入賞すると素敵なプレゼントがもらえるよ! 詳しくは公式Instagramをチェック!

➡ @petitbateau_jp